

全老連

2022. **3** 第497号

各地の活動から



協議体で 古民家カフェを オープン

島根県安来市
わかさクラブ

もり
母里地区生活支援協議体は、令和2年9月、わかさクラブも参画して発足しました。翌10月から「ふらっとカフェ」をオープンしてわかさクラブも協力しています。「家にとじこもっている人を引っ張り出すきっかけが欲しい」と考えていたクラブの会長と、住民の力で集いの場を作り、地域の活性化を図りたいと考えていた社会福祉協議会の双方の思いが協議体の場で合致しました。さらに市が所有する国の登録有形文化財「旧奥野邸」の有効活用になると、トントン拍子に話が進み開設につながりました。

カフェは毎月第1木曜の10時から15時にオープンし、毎回30～40人が参加しています。運動や大正琴の演奏をしたり、子供たちによる落語や音楽の発表など、毎回趣向を凝らして1時間程度のイベントを企画しています。イベントのない静かな時間には、仲間と待ち合わせて将棋を楽しむ姿も見られます。

仲間を増やそう!

～地道な声かけと、一人でも参加できるクラブづくり

コロナ禍においても、「新しい生活様式」を取り入れ、感染対策の下、さまざまな活動が取り組まれています。「加入促進」に向けた取り組みもその一つです。外出機会や人との交流が少なくなり、不安を抱えている高齢者も少なくありません。こうした時こそ、老人クラブの仲間づくりの輪を広げていきましょう。

そこで、今回は加入促進の取り組みを紹介します。ひとつは未加入者への戸別訪問を通じて会員を増やした長野県辰野町赤羽なごみ会。もう一つは、京都府老連から未設置地域や解散クラブの会員を対象にした「個人会員制度」の取り組み状況について報告します。

■未加入者ひとり一人とつながる ～169戸への戸別訪問

長野県辰野町／赤羽なごみ会 会員数 83人

赤羽なごみ会は、今年度、区内在住で65歳以上の方がいると思われる家庭を一軒ずつ訪問して声掛けを行いました。その結果、28名（※令和4年1月現在）の方が加入しました。



年に1回の懇親旅行

訪問先の名簿は、住宅地図を見ながら、近所の皆さんの「あのうちの人は65歳以上だよな」などの情報をもとに会員にも確認して作成しました。対象は169軒。不在のお宅もあり121軒に訪問しました。まさに足でかせぐ地道な声掛けが実を結んだ形となりました。対象者のお宅への声掛けは、会長、副会長、前会長、前々会長の4名が中心となりました。また、同じ地区の会員に声を掛けてもらう方が入会につながりやすいので、手伝ってもらいました。

●老人クラブ活動と地域のつながりを伝える

訪問先では、「会員の減少が続くと会の存続が危ぶまれ、ひいては、地域コミュニティーの活動も継続が困難となり、後退へ繋がってしまう事を危惧している」ことを伝え、会の目的「共助」「絆」「仲間づくり」の大切さを皆さんにお話させていただいています。「私たちの説明に、『加入するよ』と入会を快諾された時は嬉しかったです」と声かけに参加した役員は話しています。



町老連主催の「健康運動教室」

■未設置地区、クラブ解散地域の 高齢者への対応「個人会員制度」

京都府老連は3月に開催する研修会で会員増強運動をテーマに話し合うにあたり、初めて「個人会員制度」を活用して取り組んでいる連合会（久御山町、福知山市、長岡京市）の報告を予定しています。「個人会員制度」とは、クラブのない地区や解散してしまった地域の高齢者を対象に、個人でも連合会の行事や活動に参加できるしくみです。本号では久御山町老連、福知山市老連の取り組みの概要について紹介します。

●解散クラブの会員救済とクラブの新設

久御山町シニアクラブ連合会は、平成24年から制度を設けています。「個人会員申込書」を事務局に提出してもらい、連合会の事業やサークル活動に参加してもらっています。会費は年2,000円。主に諸行事の案内（月1～2回）の郵送代です。

本制度では、当該地域に10名以上の個人会員がいる場合は、単位クラブの設立をめざすことを条件にしており、昨年4月には制度を開始して初めてとなる「たんぽぽシニアクラブ」が結成されました。発起人の8名は、10年前に解散した2地区とクラブが無かった隣の地区に住む個人会員です。当面の活動として、週2回のグラウンド・



クラブ設立発起人の8名（久御山町）

ゴルフと週1回の清掃活動を行っています。

●入会ルートの複線化

福知山市老人クラブ連合会は、令和2年から取り組みを開始。居住地に単位クラブが無い人の受け皿となる「自由クラブ」をつくり、本部直属の「世話人会」を設けました。入会金の1,000円と市老連からの助成で運営。特徴として、既に地域のクラブに加入している会員も自由クラブに参加できるようにしており、市老連の事業・大会への参加をはじめ、その準備や運営など、事務局のサポーターとしても活躍いただいています。地域の「単位クラブ」と市内全域を対象とした「自由クラブ」、入会する機会を増やして会員増につなげたいと考えています。さらに、会員同士が集って、自主的な新しいクラブの立ち上げも期待しています。

このほか、やすらぎクラブ長岡京（市連合会）では、単位クラブのない地域の人を対象に、セーフクラブと名付けて、目的の異なる四つのクラブ（市老連のサークル活動等に参加したい、スポーツ大会に参加したい、クラブを復活させたい等）を立ち上げ、活動しています。

京都府老連では、今回の発表をきっかけに、さまざまな意見を出し合い、多様な加入促進の取り組みが広がっていくことを期待しています。



自由クラブとして市老連の大会に参加（福知山市）

北から南から

自治会が取り組んだ 解散クラブの復興

栃木県那須烏山市 興野いきいきクラブ ●会員数 150名

地域のクラブをなくさない

令和元年度、興野大字自治会にあった四つのクラブのうち、二つのクラブが後継者不足等などの理由で解散。当時の会員は合わせて118名でした。クラブから相談を受けた自治会は、地域のクラブを無くさないように直ちに取り組み、「興野いきいきクラブ」の立ち上げとなりました。二つのクラブは発展的解散として一つのクラブとし、後継者不足の課題を解消、活動はそれぞれのクラブの主な活動を継続しました。

●集まりやすい環境をつくる

復興に向けて取り組んだことの一つは、「集まりやすい環境をつくる」ことです。例えば、以前のクラブごとに活動していたので、文化・芸能活動を発案し、健康マージャン、カラオケ、絵手紙教室、手芸教室などを定期的（月1回、手芸は月3回）に開催しました。こうした新しい活動を通じて、みんなが集まりやすくなったと思います。今後も参加人数を増やすべく創意工夫したいと考えています。



絵手紙

*撮影時のみマスクをはずしています。

みんなで老人クラブの認知度を高める

もう一つが、地域における認知度アップと、PR活動です。自治会の回覧や社協だより等を使ってクラブの活動日を知らせたり、活動の様子を報告しています。さらに、全世帯に定着している自治会の清掃活動に会員に積極的に参加するよう呼びかけ、地域との関わりを増やしてPRにつなげています。

活動を通じて「ながら」の見守り活動

自治会では、老人クラブを通じて高齢者が主体的に活動することで、お互いを気にかける活動にもつながり、地域の結束力を高めたいと期待しています。こうしたなかクラブでは、サークル活動を通じて安否の情報を得たり、欠席した人を気に掛けるようになったとも聞いています。

現在会員数は150名、復興により約30名の会員増となりました。一方で、参加する活動が限定的になっている傾向が感じられます。入会時に、クラブと地域の関わりも伝えながら、さまざまな活動への参加に広がるように考えています。

(会長 阿相 孝一)



新たなクラブの結成式

北から南から

マンネリ化を防いで、 8年連続会員増

兵庫県明石市 喜楽会 ●会員数 61名

新しい活動で仲間を増やす

「喜楽会」は、平成27年から今年度まで8年連続して会員を増やしています。運営で大切にしていることの一つは、新しいことに挑戦し、マンネリ化を防ぎ、クラブの魅力伝えることです。

一番成功したと思う活動は、「健康麻雀教室」です。現在、クラブでは七つのサークル活動を運営していますが、以前は参加者のほとんどが女性でした。そこで平成28年、男性の参加を増やそうと「健康麻雀教室」を企画しました。口コミで楽しさが伝わり、現在登録者数は30名になっています。

昨年は、6月に「スマホとパソコン勉強会」(以下「スマホ勉強会」)、9月には「骨コツ筋トレ体操と茶話会」(毎週木曜日)を立ち上げました。「スマホ勉強会」(月1～2回)は、地域にある神戸学院大学のボランティア活動支援室とタイアップ(協力を受け)、学生を3～4名派遣してもらいました。

さらに、「骨コツ筋トレ体操と茶話会」(毎週木曜日)は、市の地域総合支援室とタイアップして、グループで主体的に体操を継続していけることを目標に、DVDを中心に市の職員の指導も交えて



健康麻雀教室

実施したところ、発足後すぐに2名の加入がありました。

こうした取り組みも、活動状況に合わせた柔軟な運営が大切です。スマホ勉強会は、基本的な操作を習得して質問も少なくなり、新規入会者も増えないことから3月いっぱい終了することにしました。

会員、地域をつなぐ広報誌

クラブでは、広報活動を大切にしています。会報「朝霧みなみまち通信」(A4判1ページ)は毎月発行し、役員(4名)が会員宅を訪問して配っています。内容は、会員へのメッセージ、お誕生日を迎えた会員、新規入会者の名前、行事の日時に加えて、誰でも、いつでも参加できるようにサークル活動の開催日時と会場、会費を掲載しています。住民の方々にもクラブ活動について知ってもらえるように、自治会の掲示板(8か所)にも貼っています。3月～4月は「会員増強月間」として、会員みんなに呼びかけて取り組んでいます。

課題は(私も含めて)役員交替です。クラブ運営には新しいリーダーが必要です。こうした人材を発掘、育成していくことも大切です。

(会長 平山堅司)



スマホとパソコン勉強会



いちょうだより

ねんりんピックかながわ 2022 に向けて伝承館旗の引継ぎ

開催を祈って伝承旗の伝達

昨年11月26日、神奈川県老連事務局で、新型コロナウイルス感染症拡大により中止となった「ねんりんピック岐阜2021」において地域文化伝承館を開催する予定であった岐阜県老連木村一義会長から、神奈川県老連樋口恢作理事長へ、伝承旗が伝達されました。

伝達式では、木村会長から「2年間にわたって準備を進めていました。老人クラブのメンバーも張り切っていたのですが、開催できず残念でした。神奈川で開催されることを楽しみにしています」と激励を受けると、樋口理事長は、「大会のご準備、ご苦労様でした。老人クラブの活動を広く全国の皆様に知っていただく機会となるよう、神奈川らしい大会にしたいと思います」と今後に向けての思いを伝えました。



伝承旗を受け取る樋口理事長(左)

地域文化伝承館の日程、会場

伝承館は、「ねんりんピック」の関連イベントとして、高齢者が培ってきた豊かな経験・知識・技術を活かして、取り組んでいる地域文化・伝承活動を実演・展示を行っており、老人クラブが主管して開催しています。

2022年11月12日(土)～11月14日(月)

- ・ブース出展(22団体)は、横浜産資ホール「マリネリア」
- ・ステージ発表(22団体)は、神奈川県民ホール「小ホール」

※月刊「全老連」10月号では、『ねんりんピック岐阜2021』における岐阜県老連のおもてなしに向けた取り組みを紹介しています。

第34回 全国健康福祉祭 (神奈川県・横浜・川崎・相模原大会)

詳しくはホームページをご覧ください。

ねんりんピックかながわ 2022

検索

第34回 全国健康福祉祭 神奈川・横浜・川崎・相模原大会

ねんりんピック
かながわ2022

神奈川に 咲かせ長寿の いい笑顔

未病改善でスマイル100歳

2022/11/12(土) - 2022/11/15(火)



❖「ねんりんピック」は、高齢者を中心とするスポーツ、文化、健康と福祉の総合的な祭典である全国健康福祉祭の愛称です。昭和63(1988)年に開始されて以来、毎年開催されています。(主催：厚生労働省、開催地の地方自治体、長寿社会開発センター)

厚生労働省より 「後期高齢者医療制度に関するお知らせ」

一定以上の所得のある方（75歳以上の方等）の医療費の窓口負担割合が変わります。

- 2022年（令和4年）10月1日から、一定以上の所得のある方、（75歳以上の方等）は、現役並み所得者（窓口負担割合3割）を除き、医療費窓口負担割合が2割になります。
- 変更対象となる方は、後期高齢者医療の被保険者全体のうち約20%の方です。

このお知らせ（チラシ）は、全老連ホームページに掲載しています。

後期高齢者医療制度に関するお知らせ (2022年1月発行)

一定以上の所得のある方(75歳以上の方等)の医療費の窓口負担割合が変わります

- 2022年(令和4年)10月1日から、一定以上の所得のある方(75歳以上の方等)は、現役並み所得者(窓口負担割合3割)を除き、医療費の窓口負担割合が2割になります。
- 変更対象となる方は、後期高齢者医療の被保険者全体のうち約20%の方です。

2022年9月30日まで		2022年10月1日から	
区分	医療費負担割合	区分	医療費負担割合
現役並み所得者	3割	現役並み所得者	3割
一般所得者等 [※]	1割	一定以上所得のある方	2割
		一般所得者等 [※]	1割

被保険者全体の約20%

※住民税非課税世帯の方は基本的に1割負担となります。

みんなのひろば

震災から10年 地域をつないだ菊花展

仙台市宮城野区東仙台地区大堤芙蓉会

東日本大震災からひと月が経った頃、わずかに残っていた菊苗の挿し芽を行い、5月の役員会で了承を得て「菊花の会」を立ち上げました。人々はまだ片づけに多忙を極め、菊を育てる人は数人でした。翌2012年は、会員も増え、講習会も繰り返し行うことができ、会員の声に後押しされ、11月に町内の集会所で第1回菊花展を開催しました。鉢の数は30鉢でした。

昨年11月初旬、第10回目となる菊花展を2日間にわたり、地域の公園で開催することができました。会場には、指導を受け丹精

込めて育てた「三本仕立ての大菊」や「小菊の懸崖」等、会員13名による作品、約250本の菊を展示することができました。町内の方はもとより近郊の方にも見に来ていただき、終了後は、地元の老人ホームや障害者福祉施設等に展示して多くの方に見ていただいています。（会長 佐々木勝司）



READY TO GO!

その挑戦が、未来を変える。

To Be a Good Company

東京海上日動



TOKYO 2020
OLYMPIC GAMES



TOKYO MARINE
NICHIDO



TOKYO 2020
PARALYMPIC GAMES

東京2020 ゴールドパートナー (損害保険)



損保ジャパン
SOMPO 保険の先へ、挑む。

保険の先へ、挑む。

損害保険ジャパン株式会社

〒160-8338 東京都新宿区西新宿 1-26-1
Tel:03-3349-3111 <https://www.sompo-japan.co.jp/>

立ちどまらない保険。
MS&AD 三井住友海上

三井住友海上の
安心





クルマの保険



住まいの保険



ケガの保険

www.ms-ins.com

編集後記

知り合いの町内会では、4月から回覧板をメールで配信(希望者には印刷物配布)することになったそうです。背景には「回覧板が滞り、情報が届くのが遅い」という住民の苦情があるとのこと。若い世代には当たり前の情報手段ですが、みんなが慣れる

までには時間がかかりそうです。新しい物と上手に付き合うには、愚痴も含めてみんなであれこれ話すに限る。昭和、平成、令和…私たちはそうやって新しい物に慣れてきた気がします。件の町内会は、昨年来、老人クラブづくりも検討しているとのことです。(敦)

「新しい生活様式」を実践して、クラブ活動を楽しみましょう!



距離をとろう



マスクの着用



手洗い、手指の消毒



こまめに換気

全老連で発行している資料で掲載しているPRロゴです。クラブや連合会の広報資料に活用ください。全老連のホームページ「活動資料」からダウンロードできます。